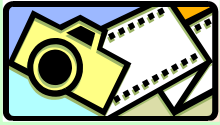


ふるさとファイル

展示コーナーだより
第11号

平成15年6月
長岡京市立図書館



わがまち アルバム

初夏・・・！

田んぼや畑も植え付けがおわり、
早苗のみどりがまぶしい季節です。
わがまちの田園風景を楽しみながら、
農業の移り変わりをみてみましょう。

6月4日(水)～6月22日(水)
昭和10～40年代の懐かしい写真を展示します。

田園風景と地域の農業



*一文橋での田植え
(昭和46年ごろ)

田植えと草取り

昭和30年代に耕運機が、そして昭和40年から50年代にかけて田植え機や除草剤が普及して、このような風景は、すっかり姿を消しました。



*調子八角での草取り
(昭和30年ごろ)

前田照男氏撮影

観光農業と野菜の栽培

*いちご狩 *かんらん栽培

都市化が進むにつれて、宅地並み課税・減反政策・用水の悪化など、農業をとりまく環境はきびしさをましていきました。さて農家はこのような危機にどのように対応していったのでしょうか。

観光農業、野菜栽培の写真(昭和40年代)や、作物の類別収穫面積の統計から、具体的にふりかえります。

6月24日(火)～7月13日(日)

初夏から初冬へ、季節の移り変わりとともに、田園風景の「今」を追います。



初夏



* 勝竜寺巡り原付近(平成15年5月下旬)

小畑川東岸は、名神高速道路や国道が通り、大規模な工場や住宅が建ち並んでいます。しかしその間に生産緑地が点在し、かつて大穀倉地帯だったころの面影をみることができます。



* 粟生長通り付近(平成15年5月下旬)

田植えが終わるころには、特産のナスビの苗もしっかりと根付いています。11月上旬まで半年間にわたり良質な京都ナスや小ナスが栽培されますが、生産者の高齢化などにより減少傾向にあります。



夏から初秋

* 奥海印寺西代付近 * 神足七ノ坪付近

夏の強い日差しを浴びて、早苗はぐんぐん成長し、田んぼはあざやかなみどりのじゅうたんになります。暑さが少しやわらぎ、9月に入ると、早いところではもう稲刈りが始まります。



秋から初冬

* 調子二丁目付近 * 今里貝川付近

取り入れが終わった田んぼに、景観形成作物のコスモスのかわいい色がゆれます。

それが終わると、井ノ内や今里などでは、冬枯れの田園に花菜のみどりが、冷たい風の中でいっそうあざやかになります。

【参考文献】

『長岡京市史』本文編二・民俗編

『長岡京市史資料集成』3 長岡京市の景観

『長岡京市の農業』平成8年・平成13年度版

『写真でみる日本生活図引』1 たがやす 須藤功編 1989年刊 弘文社